

研修報告書

焼津市議会議長 様

議員氏名 秋山博子

令和 4 年 1 月 29 日、下記のことについて、研修に参加したため、概要について報告いたします。

研修名	市川房枝政治参画フォーラム「コロナ経済対策、国・自治体はどう動く」(メディア参加)
研修の目的	22 年度自治体予算の留意事項や子どもの貧困・ヤングケアラーについて学び、予算審査等の議員活動に生かしたい (主催/市川房枝記念会女性と政治センター、講師/前地方自治総合研究所・菅原敏夫氏、日本大学文理学部教授・末富芳氏、作業療法士・仲田海人氏)
所 感	<p>(1) 「22 年度、国・自治体予算のニューノーマル 再分配と財政の役割」22 年度は、地方税収史上最高！地方交付税最高！財政健全化進展！という見通しのもと、編成されている。しかし、「好転」イコール「世の中がよくなった」ということだろうかと講師は疑問符をつける。社会は、格差という生易しい状況ではなく断絶の状況、天国はますます輝き、地獄はますます暗くなる、と。日本の労働賃金が安いのが全ての原因であり、実質賃金指数は 30 年間下がりっぱなし。その中で、自治体の現場から「働いても貧しい」という状況を打破する、コロナ禍後の取り組みを始めることが大事だと強調する。(2) 「子どもの貧困を巡る政策」日本では子どもの貧困にアプローチしにくく、英語圏に比べても TV 等で取り上げる機会が少ない。見ないふりをする社会になってしまっていると指摘する。その上で、求められる政策として●学校内に安心安全な居場所カフェを作る●ブラックファーストクラブを設置する (英国事例/朝食を提供) ●貧困を多角的に捉えることの必要性などを指摘。これらの考え方の基盤は「子どもの権利」、そしてゴールには子どものウェルビーイングを置く。市町村レベルでは兵庫県明石市がアウトリーチの射程を伸ばし、既存の政策に上乘せする対策を評価。また、今後デジタル庁のプッシュ型支援や常設型 SSW など始まるはず。まずこれらの実証事業に手上げし、その後、継続という流れを作りたいと語る。(3) 「ヤングケアラーと官民連携」講師はご自身ケアラーだった経験を著書にしている。ケアラーの子どもたちはエライねと言われて育つことが多いが、「ケア」と「お手伝い」は違う。私がいないと他にやる人がいないという離れられない責任を負っているのが「ケア」なのだという。神戸市では専用の窓口を設置し、高崎市ではヤングケアラーの家事支援を開始、ケアラー支援条例を制定した自治体もあることを紹介していただいた。</p>
今後の参考となる事項	<p>(1) ヤングケアラーについて、国の調査や自治体の状況を把握し、対策を探りたい。</p>

* 上記に書ききれない場合は、適宜別紙を添付してください。

* 参考資料等がある場合は、添付してください。